教草女房形氣

山東京山著

巻十

十之

へ13
3580
15

へ13
3580
15

文榮堂發賣文房書目

考槃餘事　明屠本畯著　東溪源遜校　白紙摺明朝綴　帙入全部四冊

題畫詩選　岡嶋廬門著　全仕立全二冊

書畫皆宜　美疑氏撰輯　白紙摺明朝綴　帙入全部一冊

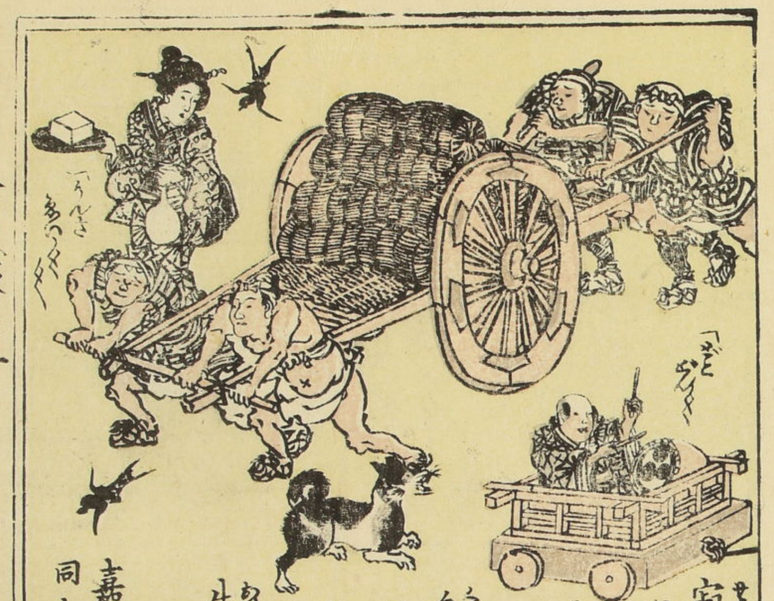
題畫詩　[illegible]　全仕立全一冊

書舗　浪華心齋橋筋北第五街　前川善兵衛

早稲田大学図書館　昭和35.1.22　藏

おのれ一京山唐人の稀なりといひ
七十の時めでたく浮世を仕舞てあと
まる丸め五斗米の腰を折て袴を
蟬蛻て袖なし日織の投頭巾
猿の指に渋柿の身のあまバ
山みや入らんをハ殺の疎く水の
山の奥のうぶそもと詠る哥まを地
主となのみ土蔵の後の巣を造り
なる方丈の單壁猫の額ぐらい
を書齊も茶室もの八人の任
まぐ〜土一升金二升の地面をバ
鄭老ゲ七松も庚のうえぐ陶隱ゲ五

柳の門ふるく蟻究の一亭ふ献之
の竹ハ植つまでも舌切雀の窠ゞ
ふたゝびお宿ハ何所やと訪る人の
無いまゝ〳〵ふ閑寂の小自在ゝ
釜ふ山林の松風を閑瓶花ふ浮世
の春を知る柴の戸ちうゝ
らゞ朝ゑゝの音曲も耳を
ねまバ隣の庭の蟬の声もすゝ
駒ゑゝの音車ふ掛声松虫
やく犬のかめふひ児曹ゞ
鼓の音婆ゞゞ幼花のくゝ
街嚷僅ふ牆一重を隔てかゝ
らまどゝきゝゝふ夏時の鐘ゝゝ



寂として声無く稍々韻士の時至りて
心ちゝく燈火ふ對して文を綴る
ハ筆を採るかゝ在ゝ
ゝ
ゝ

女房形氣十五編上巻

つまおとり

玉の一をぢ
ねうや六兵衛
二段

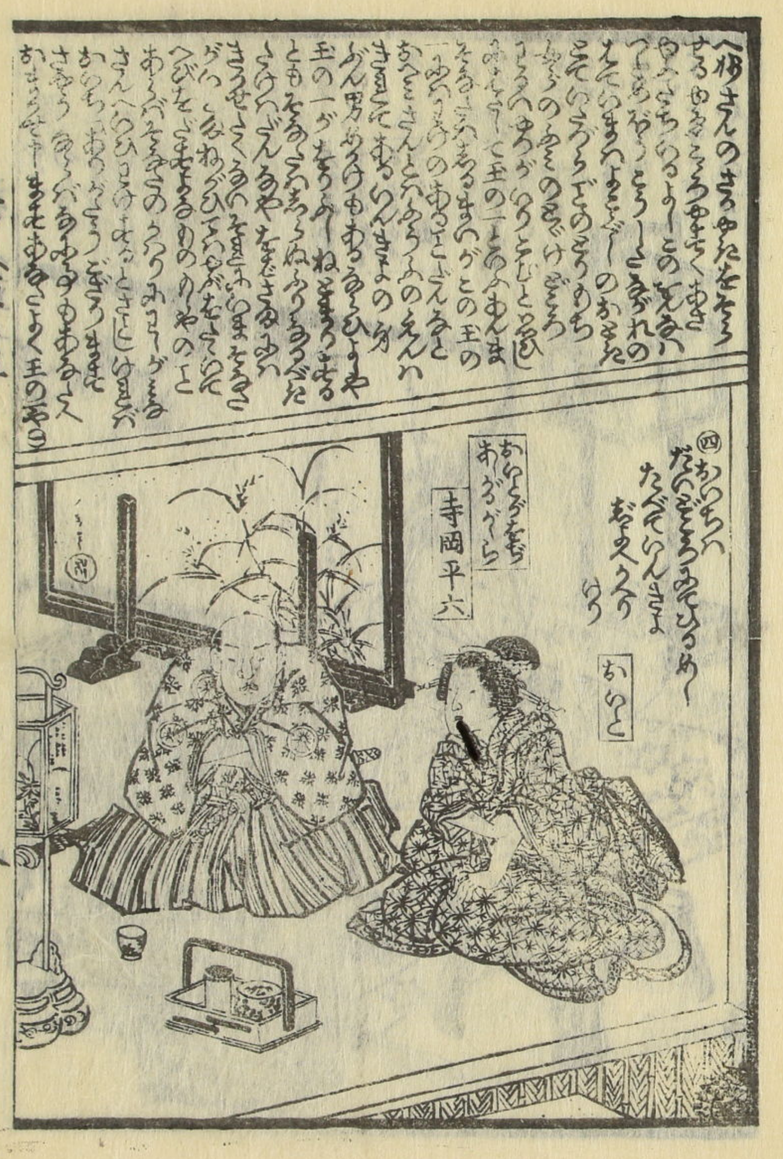
上せの
ちんろ
久さく

玉の一
でしのめんま
三ろのへや
でーぐら
ろの一

三段
四段
玉の一
孝子太郎母
今ハヘ妙

五段

ちいと



六段
かくて
きよへ妙

玉の一
よとべ
おとた

あげまきのけらの
あがるめがーら
寺あろ平六
玉の一をぢ
ぬるや六べえ
七段

六べえつま
おとるま
玉の一
此所の家のこと下の巻にあり

京山老人作 國貞画

▲おようそ女としてハ子を
うむべきえだ
ちのうえハ
子をたいそうのうちみ
さいりゝあるゆゑ
さいりをそうひてめで
ゝくそうあひまゝ
ゆゑなり
江戸京ゝ一限坐
一丁目京傳
女そうとゞまり
男大きゝ
ゆゑん懐妊丹
わるゝ一ゝ五匁
半ゝ三匁五ト女ハ
五十い上ゝ
月ゝ
そうむるうちハ
男いうらみ
のでくとゝ
つくるゝ
ゝ
▲十三味ふまりあつひ粉
ゝ
水晶粉一ふくろ百三十三せん匁一ふくろを白く
ゝ
ゝ
ゝ

ねゝや六べゑ
つまちよん

森の一

十二月八幡宮
十一
十三
十四
十五
九段

十段

おさな

おいち

十一段

八百屋

その二

おさん

十三段

おさん

おくさまやかた妻

おらと

十四段

ゆんもち

おくま

玉へみ

十四段

京山老人作

梅蝶樓國貞画

教草女房形気十五編下巻終

文房事十六編は
近日出板仕り

ウエブストル氏
スペルリング 獨學 一冊

サーピント氏
第一リードル 獨學 一冊

日本
書記 神代巻 片假名付 小本 一冊

宮田先生著
皇朝戰畧編 台本 八冊

加藤髙文先生著
地方大概集 自初編至四編各五冊完

近藤先生著
金銀圖録 彩色入 全七冊

学校専用改正
小學素讀本 二冊

英學之部
横文字獨稽古 新本 書冊

森先生著
洋算学教授

石西岸美術早合点
彩畫法の手引 一冊

大阪心齋橋博物館
於久寶寺町南入
藪兒書肆 前川源七郎梓

右之書籍仮令出来之事有之共

軍談小說
稗史類纂
時代源類